（別紙の２）

自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「心と心を繋ぎ共に生きる」を理念に掲げ、毎月の定例会議資料へ記載を行い、共有を図っている。	法人の理念と事業所独自の理念が作られ、毎月開催される各ユニット会議の資料冒頭に毎回記載され、全員で確認し共有に努めている。また理念を踏まえて年度ごとの取り組み目標が作成されている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ感染症の流行により、外部の方との交流が行えていない。	コロナ禍に開所されたため、この2年間は感染症対策のため外部との交流はほとんど出来なかった。その中でも近隣にある花見や紅葉等の名所にドライブしたり、人混みを避けながら可能な範囲で外出の機会を作っていた。	新型コロナ感染症の5類引き下げに伴い、外部との交流を徐々に深めていくとのこと。これまで検討するも実現できなかった自治会やボランティアとの具体的な交流を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナ感染症の流行により、外部の方との交流が行えていない。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナ感染症の流行により、現地開催が出来ておらず、書面での開催のみ。	コロナ渦のため運営推進会議は開催されていないが、3ケ月に1回、近況や期間内の活動内容等を文書にまとめ、参加メンバーの諏訪広域、原村保健福祉課、地域包括支援センター、自治会会長、民生委員会、家族代表、消防団等へ郵送している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域開催の会議への出席はするが、密な連携は図れていない。	コロナ禍の為、運営推進会議が開催できないなど、直接顔を合わせる回数は少ないが、必要に応じて電話等でやり取りを行っている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていないが、職員への理解や知識の獲得へ向けた勉強会が不足している。	現在、グループホーム内で身体拘束は行われていない。系列の老健や特養等の施設が集まったグループ(原事業部)が主催する研修に参加し、グループホーム内で伝達研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待についての勉強会を開催しながら虐待防止へ努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について学ぶ機会が作れておらず、活用へ動けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については時間を作り説明し、理解をいただきながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族への意見集約は行えていない。	家族に対しては、コロナ禍で面会が少ない中、物品購入のお願い等で電話をした際に意見等の把握を行っている。4ヶ月に1回、利用者の写真を載せた手紙を送り、コロナ禍における施設での生活の様子をお伝えし、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例会議において職員の意見集約に努めている。	コロナ禍の中で施設を開所し丸2年が経過。施設長が中心となり、これまで職員全員で意見を出し合い、工夫しながら、一から施設を作り上げてこられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準、労働条件等の整備は自施設では行っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナ感染症の流行もあり、外部への研修参加が行えておらず、自施設での研修会も不足している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新型コロナ感染症の流行により、交流の機会が作れずにいる。		

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	暫定プランにおいては、まず入居者の言動を十分に注意してみながら、こまめに声をかけ、不安に感じている点を早期に発見できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	インテークにおいて、家族より話を聞くが、その後も何回か電話や、場合によっては通いノートを作り関係作りに努めたことがある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にはグループホームへ申し込みを検討されているケースがほとんどであり、他サービスについての見極め、相談が出来ていないことが多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	カンファレンスにて、個々に必要なケアや関わり方を検討しながら関係作りに努めているが、本人を知ろうとする意識作りをしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	受診はご家族へお願いしたり、施設入居後も家族との関係が途絶えないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方が訪ねてみえた時には、主介護者へ確認した上で、面会等のサポートを行っている。	新型コロナウイルス感染症の5類引き下げにより、現在面会は相談室で可能となり、今後は時間を制限した上で居室での面会も可能になる見通しとのこと。また在宅時、利用していた美容院等の馴染みの場所への外出等も、順次行われる予定と聞き取る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブル席の工夫をしたり、一緒に洗濯干しやたたみ物を行ったりできるよう、環境づくりに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご連絡をいただいた際には、相談・対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入) 実践状況	外部評価(評価機関記入) 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族よりアセスメントを行い、昔の生活状況を聞き、本人の言動と合わせて総合的な把握に努めている。	本人、家族から思いや意向、これまでの生活歴等の聞き取りを行い、センター方式を用いてアセスメントが行われていた。これまで歩まれた人生を尊重し、踏まえた上で、その人らしい生活の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅生活の様子をアセスメントする中で、必要と思われる物品は居室の身近な所へ置き、人間関係もできるだけ継続できるよう面会などにおいてのサポートに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスにて、一人ひとりの状態共有を行い、どの程度の介入が必要であるか見極めながら支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員、ケアマネを中心としてアセスメントを行い、本人の喜びや悲しみ、苦しみや望みは何かを言動からくみ取り、必要なケアをカンファレンスで話し合い、計画へ反映させている。	本人・家族からの情報を、主にセンター方式を用いながら、担当者、ケアマネージャーを中心に施設内の看護師、及び月に1～2回訪問している系列の老人保健施設の理学療法士等がチームとなり、介護計画が作成されている。カンファレンスはユニットごとに実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を行い、モニタリングやケアの実践時の気づき等を、カンファレンスにて、プランに沿った実施となっているのか確認をし、必要時には見直しや変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の状態に応じて、関係施設リハビリ職員からアドバイスをもらってケアに繋げたり、グループホームでの生活が難しく思われる方へは、本人や家族と話し合い、他のサービスを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	職員と共に図書館へ出かけたり、散歩に出かける機会作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の支援のもと受診は利用者のかかりつけ医を継続し、対応が困難な場合は往診にて医療を受けている。	かかりつけ医は、本人及び家族の意向が尊重され、在宅時の掛かりつけ医を継続することが出来る。その際の通院は家族対応となるが、施設には3名の看護師が配置されており、受診の際は、施設の看護師から日頃の体調や様子等が記載された書類が渡され、受診先との連携がスムーズに図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の変化や気づきは施設看護師へ情報共有を行い、往診や受診時につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は患者サポートセンターや病院相談員と適宜連絡を取り合いながら、入院時の様子や退院に向けた情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約の時点で、重度化・終末期の対応についてはご家族へ説明を行っている。	入所の契約時に、重度化や終末期の対応に関する説明が行われている。開所から2年を経過したところで、看取りの事例はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変時や事故発生時の定期的な訓練が行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練は実施しているが、地域との協力体制づくりが行えていない。	避難訓練は年2回実施されている。2つのユニットが入る建屋は平屋建てであり、火災の際は玄関以外4か所からフラットに外へ避難できるようになっている。	

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳とプライバシーを守れるよう、言葉かけや対応に努めている。	教育と接遇の担当者でもある管理者が中心となり、職員全員が利用者の尊厳とプライバシーを確保した対応が取れるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴時の着替えを一緒に選んでもらう等しているが、日常的に自己決定への働きかけができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望を聴取し、希望に沿った支援が出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の身支度や、外出(受診)の際の身支度へ配慮している。また、ヘアカラーを望まれる方には定期的に実施したり、事前に色の好みを聞き、家族へ衣類を依頼することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理や片付け等、何か家事に携わることが生きがいになっている方へ、能力に合わせた行程を選び一緒に行っている。	食事は、本部から送られてきたメニューと食材により、すべてフロアで手作りされていた。利用者は、調理や片付けなど、各々の能力に合わせて参加されているとのこと。	食事は全てフロアで手作りされている。今後は、これまで以上に利用者が調理等に参加できる体制が整備されることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事メニューは関連施設の管理栄養士が作成したものを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。それぞれにできる範囲で行っていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄面で自立されている方が多く、一人ひとりへの支援は出来ていない。	排泄は、現在自立されている方が多いが、排泄チェック表を用いる等、出来るだけトイレで排泄出来るように、また適切な容量のオムツを使用するように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	内服での管理となってしまっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	現状曜日を指定し入浴をしているが、本人の意思に沿い、入浴日を変更することもある。	週2回、職員とマンツーマンで入浴している。各々おおよその曜日と時間は決まっているが、本人の様子や気分などによって、日時を変更するなど臨機応変に対応されている。湯船に浸かると、窓からの森林の眺望が素晴らしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人にとっての、自然なリズムが作れるような配慮が欠けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの内服について理解が進んでいない。看護師の管理に任せてしまっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の活動への支援が出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩に出かけたり、行事を企画してドライブへ出かけることもあるが、家族や地域の方と協力しながらの支援が出来ていない状態。	天候の良い日は、日常的に近所へ散歩に行ったり、外出行事として近隣の名所へ紅葉狩りやお花見に出掛けている。昨年は御柱祭の建御柱も見学に行った。	

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	貴重品や金銭の管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話が使用できる方は自由に使用されていたり、電話やメールのお手伝いをすることもあるが、日常的には難しい状況。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	刺激が多くならないように配慮を行っているが、季節感や生活感が少ない。	フロアには高窓があり、自然の採光を取り入れ明るい印象。両ユニット共に使いやすいよう真ん中に中庭及びウッドデッキがあり、洗濯物を干す等に利用されている。湯船に浸かると、浴室の窓から贅沢に森林を眺めることができる。全体的に明るく奇麗で居心地が良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング席は、入居者の状況により検討して配置をし、独りで過ごせるようリビング奥にソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、ご家族へお知らせして枕や写真等持参いただいている。	使い慣れた枕等の小物を持ち込まれたり、家族や懐かしい写真が飾られている。家具等の持ち込みは制限されていないが、備え付けの家具を利用されていた。居室にエアコンはないが、床暖房が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室・トイレの扉を色分けしたり、危険なものは近くに置かないように配慮し、安全に生活が送れるよう工夫に努めている。		